

東北三地本 | 検索

KOGOTAは ここだ

自分のため、家族のため、未来のために、勇気を出してもう一度JR東労組に結集しよう!

石巻線・気仙沼線・陸羽東線1両混雑運転は ダウンサイジングを『重視し過ぎる』 JR東日本会社経営姿勢そのもの

小牛田運輸区分会1両運転対策プロジェクトでは、922Dや1642Dを中心に、新学期4月第3週、1年生から3年生までが揃う一週間に乗降調査を実施しました。その結果、1両編成の列車に会社の分析通り『乗りきれた』ものの、その車内の混雑状況は常軌を逸したものであったと前出の分会だよりで報告されました。まだ社会的にも立場の弱い学生を中心にした旅客層で、胸に秘めるコロナ感染のリスクを負いながら乗車している小さな声の一つ一つ拾い上げ、私たち労働組合が拡声器になって、悲痛な声の叫びを訴えてきましたが、今日まで増結は実現しません。

乗れば良いのではない!

新型コロナウイルス感染症の魔の手は、容赦なく地方にも押し寄せ、高止まりを見せている。私たちJR東日本は言うまでもなく公共交通機関であり、輸送の使命と共に旅客の生命と財産をお運びする事です。また、この感染症爆増の情勢下、利用客の『健康』も一緒に輸送する使命もあるのではないだろうか。

未来のある若い人に鉄道を苦痛の乗り物にしてはならない!

当社の利用客はコロナ以前の水準に戻ることは無く、人口減少も加速度的に加えられ、経営環境はより悪化することが予測されている中、私たち社員・組合員は国民の財産を引き継いだ、ローカル線を維持発展しなければならない。人生で初めて鉄道を利用した高校生が、このコロナ禍で意図的に減車した列車に乗り、その苦痛を思い出したら、果たして今後もJR東日本という企業を信用して利用してくれるだろうか?現に、今回調査した1週間だけで、利用客は明らかに鉄道を敬遠する傾向が確認されている。まさに1週間で信頼を失った結果である。社会的使命を考えても、この時期の減車は全くの時期尚早であり、速やかな増結が必要である。

JR東労組小牛田運輸区分会1両運転対策プロジェクトの考え方【再掲】

- ①利用客減少に伴う減車運用は必要な効率化施策であると認識している
- ②新型コロナウイルス感染者が拡大している現時点での減車は反対である
- ③学校行事やイベントを把握し、フレキシブルな増結対応をするべきである